

住民宿泊所

■「独島常住人口数増やして、領有権強化すべき」

[ソウル新聞 2011. 3. 30 キム・サンファ記者]

今年6月の独島「住民宿泊所」拡張改装工事の竣工にあわせて、民間人の常住人口を増やして、独島領有権を強化しなければならないという指摘がおこっている。

29日慶北鬱陵郡によれば、鬱陵邑独島里（西島）20-2 一帯、海拔18mに計30億ウォン（国費21億、地方費9億ウォン）を投じて、建設中の独島住民宿泊所の拡張改装工事が6月頃に終わる。現在工程率は91%。住民宿泊所は地上4階、面積373.14㎡、高さ11.86mで、従来（2階、面積118.92㎡）より3倍大きい規模となる。

宿泊所は、独島住民に登録されたキム・ソンド（71）・キム・シンニョル（74）さん夫婦を含めて、最大40人の同時居住が可能な部屋5と、浴室と台所（食堂含む）、倉庫2、機械室（発電機2台）などを備える。宿泊所が竣工されれば、独島の定住条件が大きく改善するだけに、キムさん夫婦のほかに、他の民間人も居住するようにして、彼らに対する政府レベルの支援も強化しなければならないというのだ。

現在は、慶尚北道が「独島居住民間人支援に関する条例」の制定を通じて、2007年1月から独島唯一の住民キムさん夫婦に、毎月生活安定資金100万ウォンを支援するのがすべでだ。政府レベルの独島民間人支援はただ一銭もない。この条例の支援対象は鬱陵郡守から独島居住の承認を受けた後、ここに住民登録を置いて、1ヶ月以上住んだ人だ。金額は1世帯あたり月70万ウォンで、世帯員が2名以上の時は1名超過するごとに、30万ウォンを追加で支援する。

こうしたなかで、独島最初の住民である故チェ・ジョンドクさんの娘キョンスク（47・京畿光州市）夫婦が、宿泊所竣工以後の入居を積極的に推進中である。「独島チェ・ジョンドク記念事業会」も、チェさん夫婦の宿泊所入居が行われる場合、生計維持の支援などのために、2t規模の船舶を建造して提供するという。チェ・ジョンドクさんは、1965年独島に敷地を取って、家族と一緒に23年間暮らした。しかし鬱陵郡独島管理事務所は、宿泊所が竣工しても、宿泊所の条件上、キムさん夫婦のほかに民間人の追加入居は難しいという立場なので、独島有人化政策に中途半端という非難を自ら招いている。

独島管理事務所の関係者は「現在30名余りである独島警備隊員を大幅に撤収させ、その場所に多所帯村を造成し、民間人を常住させることが独島有人化をはかるための現実的代案になることができるだろう」と主張した。

キム・ジョンハク慶尚北道独島守護課長は、「宿泊所が竣工されれば、鬱陵郡と協議し、民間人の追加入居を積極的に推進する」とし、「現在選抜の問題などに対する検討作業をしている」と述べた。

shkim@seoul.co.kr

2011-03-30 8面

<http://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20110330008008&spage=>

住民宿泊所